図 25.10　頭部白癬（tinea capitis）

図 25.11　Celsus 禿瘡（kerion）

canis による症例も散見され，この場合は炎症症状が強い．

同様に顔面に生じる白癬には白癬菌性毛瘡もある．中年男性の上口唇部に好発（**図 25.9**）し，須毛部（口ひげ，顎ひげ，頬ひげ）全体が発赤腫脹して，毛孔から膿汁が排泄される．毛を引っ張ると容易に脱落する．ひげ剃りやステロイド外用薬の誤用による発症が多い．須毛部に生じた Celsus 禿瘡（後述）ともとらえられるので，治療は Celsus 禿瘡に準じて内服療法を行う．

6. 股部白癬　tinea cruris ★

俗称は“いんきんたむし”である．成人男性に好発し，多くは足白癬を合併する．陰股部や殿部を中心に，体部白癬と同様の環状紅斑を形成する．瘙痒が強く，対称性に発症する．陰嚢は侵されにくい．年余にわたって放置された症例も多く，難治性で抗真菌薬の内服を要することもある．

7. 頭部白癬　tinea capitis ★

俗称は“しらくも”である．小児に多い．毛髪に菌が感染した状態である．被髪頭部に境界明瞭な脱毛巣を形成し，病変部位には乾燥性で粃糠状の鱗屑と短く切断された毛髪を認める．病毛が毛孔部分で折れて黒点ができるものを black dot ringworm と呼ぶ．瘙痒や疼痛などの自覚症状は少なく，通常は炎症を伴わない（**図 25.10**）．

8. Celsus 禿瘡　kerion ★

ステロイド外用薬の誤用などを基礎として，頭部白癬など毛包部の白癬に真皮の炎症が加わることがある．紅斑や毛孔一致性の丘疹，膿疱，さらに扁平から半球状の膿瘍を生じるようになり，これを Celsus 禿瘡という（**図 25.11**）．疼痛を伴い，軽度の波動，膿汁の排出をみる．病変部は脱毛し，残った毛髪も容易に抜ける．所属リンパ節の腫脹や発熱などの全身症状をきたす．ペットを介して感染する *M. canis* が最も多く，幼小児に好発する．最近，*T. tonsurans* によるものが増加傾向にある（MEMO 参照）．病理組織学的には毛髪に白癬菌の感染を認め，

MEMO　*Trichophyton tonsurans*

MEMO　浅在性白癬と深在性白癬